

令和5年度 第1回 岡山市環境政策審議会概要

1 日時 令和 6 年 3 月 25 日(月曜日) 午前 10 時～午前 12 時

2 場所 市役所議会棟3階 第1会議室

3 出席者

委員:赤井委員、井勝委員、塩入委員、難波委員、哈委員、松井委員、三宅委員、吉田委員

岡山市:環境局長、環境局次長ほか関係職員

事務局:環境企画総務課

4 傍聴者 0 名

5 主な意見

(1)岡山市一般廃棄物処理施設整備基本計画(素案)について

計画の概要について説明を行い、質疑応答が行われた。特に指摘があったのは次の 2 点。

①整備の時期、費用、必要性を市民に丁寧に説明すること。

②予測だけでなく、目標も示すこと。

その他、主な内容は以下のとおり(●は委員、○は当局を示す)

●広域処理施設とはどのような施設か。

○p.8岡山市・玉野市・久米南町のごみを焼却処理する施設を現在建設中である。

●プラスチック分別により当新田環境センターの廃止はできないか。

○プラスチック分別により、可燃ごみは8,000t/年の減少を想定しているが、不足が6万t/年あるため、現時点では廃止は困難である。

●p.8政令市として、可燃ごみ処理施設は災害に対応できる施設、バックアップとして複数の施設をもつべき。

●p.6再生可能エネルギーの説明等については、行政からの丁寧な説明だけではコストがかかると思われるので、大学等と連携して市民に勉強して頂ける場を提供することで、リテラシーの高い市民が増え、説明コストが下がり、より戦略的に踏み込んだ対策に取り組めるのではないか。

●グローバルに打って出られるような力を入れているポイントをいくつか示し、国際交流の場で示すことで、国際的に岡山市としてのプレゼンスが高まるのではないか。

●議会のみではなく、市民にも施設整備の必要性を丁寧に説明した方が良い。

○市民の方に丁寧に説明をさせていただくための資料として、今回の計画を立てており、ロードマップによって、将来的にかかる費用、各施設の整備時期をわかりやすく示すことを考えている。

●現在サーマルリサイクルを行っている可燃ごみからプラスチックを分別することでメリットがあるのか。

○令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法を受けて方針決定している。

●p.12市民に向けた説明資料は、この資料のように単純で見えやすい方法で良いと思う。

●p.13施設の建替をするときの立地検討時には、輸送コストも検討項目に含めた方が良いのでは。

○立地検討を行う場合には、輸送コストについても検討する。

- ごみ焼却時の排出量は、二酸化炭素以外の有害物質についても配慮が必要と思う。
- 将来の施設整備計画では、20～30年後の将来のニーズを考慮して、海外から施設見学が来るように斬新な処理モデル(例えばAIなど)を検討してはどうか。京都市では、AI監視カメラを導入して人件費を削減している。
 - 5年ごとに本計画を見直し、検討したい。
- 最終処分場のBODとT-Nについて、吉備中央町での不法投棄による水質汚濁など、現状はどのようになっているか、またどのように対応するのか。
 - 当該有害物質の分析を行ったが、最終処分場からは基準を超える有害物質は検出されていない。また、水処理施設で処理しているので対応できている。
- 可燃ごみ処理施設の処理能力について、生ごみの分別回収をすると必要処理量が減るのではないかと。段ボールコンポストなどは効果がある。
 - 生ごみを分別した後の処理方法を考慮すると現時点では難しいと考えている。
- 市民への説明として、資源化物(セメント原料、溶融メタルなど)の利用先、利用量、何%利用されているかについて教えてほしい。
 - 定性的・定量的の両方で示したい。
- 廃棄物についても地域循環(地産地消)を検討頂ければと思う。
- Lv.2作成にあたって、灰溶融の灰が環境保全事業団に持っていけるかの検討を示していただきたい。
 - 環境保全事業団及び民間業者への搬出についても検討し、検討内容をLv.2の中で報告する。
- Lv.2作成にあたって、可燃ごみの完全な民間委託はそもそも可能であるかの整理をしていただきたい。
- Lv.2作成にあたって、廃止の結論を示すことは難しいかもしれないが、p.12最終処分場について山上以外の施設が示されていない。
 - Lv.2の図表は、あくまでもイメージをお示ししており、今後検討を進めていく。
- p.13予測だけではなく目標が必要。目標は一般廃棄物処理基本計画が用いられているのか明確に示しておくことが必要。
- 今後の強みは社会システムと技術の組み合わせであると思うので、岡山市は廃棄物処理というリーダーシップを発揮できる分野を持っているので、国からの情報のみではなく、自ら国際動向から地域循環など、社会システム構築について間口を広げて取り組んでいただきたい。
- p.2視点として重要である計画の基本理念(循環型社会の実現に向けた資源循環の強化)環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画の目標値に対して、整備する施設がどのように貢献できるのか、不足する部分はどのように埋めていくのか課題を明確に示していただきたい。一つはリサイクル率で、国なり岡山市の基本計画で、どのくらい整合性がとれているのか。災害時については、災害時に対応するために施設としてどのくらいの余力を持っておく必要があるのか。脱炭素という点では、カーボンニュートラルの部署でかなり難しい目標を掲げられているが令和7年で31%、最終50%削減目標についてどのように積み上げるのか、施設整備計画ではどれくらい貢献するのか、どれくらいギャップがあるのかについてもみていただければ。
- p.5灰溶融の選択肢をどうするか。セメント原料化、灰溶融、焼成炉の選択肢の特質を定量的に示すこと。

- p.8建替、改修、統廃合、民間委託を検討範囲とするが、立地選定までは今回の検討範囲には含まない。
 - 短期的に立地選定まで検討するのは、難しいため、今回の計画の検討範囲には含まない。
- p.8令和9年度以降の広域処理施設整備により、岡山市以外の焼却施設が廃止となる。岡山市以外の広域化としての効率化に寄与しているという視点も含めて整理していただければと思う。
- p.9プラスチックについても何か課題があれば整理していただければ。
- p.10老朽化が進んでいるので、改築・統合も含めて検討いただく。
- p.11廃止は慎重に資料をそろえていただければ。
- p.13施設の健全度について説明いただきたい。
 - 3年に一度実施する精密機能検査により健全度を評価して、優先度を定める。
- p.13分別区分別の原価計算ができると非常に透明度の高い政策の説明資料になると思うので検討いただけると良いのでは。
- p.13リサイクルの将来目標31.1%であれば、現状からプラスチックの分別回収であと3%上昇すれば達成できる。